



とらいあんぐる



2017 年 1 0 月

一音会ミュージックスクール発行

「子どもは知っている」

前号の「とらいあんぐる」で、幼い頃、私が受けた仕打ちを書きました。

私は、なぜか八百屋のおじさんに無視をされていて、悔しくみじめな思いをしたのでした。

当時は、悔しさと眠れない夜がたくさんありました。

そんな夜には、決まって空想をするのです。

思いえがく場面は、「強いオバさんになった私が、あのおじさんをやっつける場面」です。

オバさんになった私は無敵です。

空想の中で、“うんとかっこいいお洋服”を着た私は、八百屋さんにのりこみ、おじさんを指さし、「あなたが昔、私にしたことをおぼえていますか？」ときいてやるのです。

おじさんは、目を白黒させます。その顔を思いえがくのは、痛快でした。



「いや、いや、そんなんじゃ足りない！」と思う夜もありました。

「そうだ。いつかうんとエライ人になって、たくさんの人の中で、おじさんがやったことを話しちゃおう！」

会場いっぱいの人たちが、私の話をきいて、驚いた顔をしています。みんな立ちあがると、こぶしを突きあげ、「その八百屋はひどい！」と、声をあげるのです。

壇上の私は、満足そうにほほえみます。

「そうだ。本もいいな・・・」と思います。

「あのおじさんが悪い人だということの本に書いてバラしてやるんだ。本を読んだ人が、『なんてひどい人なのでしょう！』と涙を流して、いっしょに怒ってくれるんだ」



本が発売されると、八百屋さんの前に、たくさんの人ばかりができます。

みんなが口々に「アッチちゃんにあやまりなさい！」というのです。

「そうしたら、おじさんがキャベツを持って、うちに来て、『ごめんなさい』っていうんだ」

私は、おふとんの中で、にやにやしていました。

「いつかきっと・・・いつか・・・」勝利の光景をひととおり思いえがくと、私は気がすんで、いつしか眠りに落ちるのです。

その「第一マーケット」は、今は存在しません。八百屋のおじさんに、指をつきつけたくても、もうそれはできないのです。

私が中学生になるくらいの頃には、「第一マーケット」の中の店が、一軒、また一軒と閉店しはじめ、大学生になった頃、最後に残っていたおもちゃ屋さんが店を閉じました。

私のかけたのろいが強力だったのでしょうか。

いえ、そうではなく、はるかに優れ

たスーパーが増え、「マーケット」が時代おくれになったのでした。

「第一マーケット」以外にも数軒あった「マーケット」は、次々、取り壊され、別のお店が建てられたり、マンションが建てられたりしました。

しかし「第一マーケット」だけは、今も取り壊されるでもなく、40年前と同じ姿のまま、重いシャッターを閉じています。

そこだけ、時代から取り残されたかのようにです。

八百屋のおじさんとの直接対決は、とうとうかなわなかったわけですが、先月の「とらいあんぐる」でうらみを吐き出し、私は満足するべきでした。

現在、「とらいあんぐる」は、紙媒体で1000部以上、印刷しています。

さらにネット配信もしていますから、あわせますと、本当に多くの方にお届けしていることになります。

もう、十分です。

私は子ども時代の空想をかなえた、と思うべきです。

むしろ私は、「とらいあんぐる」紙上

でうらみをはらすという、自分のおとなげないふるまいを反省したほうが良いくらいかもしれません。

しかし今、「第一マーケット」のシャッターの前に立つと、40年前とあまりにも変わらない風景のせいなのか、40年前と変わらず、強い怒りがわきあがってくるのです。

「いったいなんだったんだ！ あの仕打ちは！」

子どもは、本当に執念深いものです。

子ども時代の強い感情は、何十年たとうとも、忘れることはできないのだ、と知りました。

子ども時代、私が受けた理不尽な仕打ちは、時代の違い、ということもあったに違いないと思いますが、私が子どもだったから、ということも大きかったと思います。



今の私は、押しの強いオバさんです。
私が理不尽な目にあうことがなくなったのは、もしかしたら、時代が変わったせいではなく、私が無力な子どもではなくなったからなのかもしれません。

だとすれば、「今が良い時代だ」と満足するのは、はやいのかもかもしれません。

子ども目線で見れば、今も理不尽があるのかもかもしれません。

子どもは案外、おとなの悪いところを見ているものです。

そばにいるのが子どもだと、「子どもには分からない」と油断し、とりつろわず、本性を見せてしまうものなのでしょう。

また、子どもというのは、明らかな弱者ですので、軽く扱ってしまうのでしょう。



子どもの意外にすぐれた観察力を考えますと、いずれもこわいことだと思います。

もう一度、八百屋のおじさんの話をさせてください。

私は、「キャベツ、キャベツ」と叫びながら、ずっと待たされていましてので、結果的に八百屋さんで長い時間を過ごすことになっていました。

長い時間、八百屋のおじさんの観察ができました。

「後まわしにされる法則」も、だんだん分かってきました。

まず、身なりの貧しそうな人は、後まわしにされていました。

若すぎる人も、後まわしです。よく会う、おとなしそうな若い奥さんがいましたが、その人もなかなか注文を受けてもらえなくて困っていました。

ごくたまに男の人が来ると、最優先でした。最後に来ていたのに、なぜか最初に注文を受けてもらえるのです。そういうことは何度もありましたので、確かです。

押しの強そうな中年女性も優先され

ていました。ただし、歳をとりすぎているとダメでした。いつも後まわしにされているおばあさんが何人かいました。

おじさんの中での“優先順位の法則”です。

この法則性が分かったのは、私にとっては、ちょっとした発見でした。

さらに大きな発見もありました。

八百屋のおじさんもまた、怒鳴られたりしているのです。

機嫌の悪そうなお客さんに、早口で注文をされ、ききとれなくて怒られていることがありました。

また、おじさんはまったく悪くないのに、きつい口調で何かをいわれていることもありました。おじさんは、ペコペコと、頭を下げていました。

お客さんの中には、お金を地べたに投げ捨てるかのように置いていく人もいました。

おじさんは、地面にひざをついて、硬貨を拾っていました。

私の発見は、こうです。

「弱いものをふみつける人は、自分

自身もまた、ふみつけられている人なのかもしれない」

おとなになった今、思い返しても、真理であるように思います。

おとなは、かつて自分も子どもであったはずなのに、子どもがひどく執念深いことも、意外なほど観察力があることも、忘れがちです。

相手が幼いと、「子どもだから」と、気をつかわずにふるまってしまいがちです。子どもの前でこそ、気をひきしめなくてはならないのに。

子どもは、いつもおとなを見ています。

幼い頃の私が、今の私を見たらどう思うだろうと想像すると、時々、はつとすることがあるのです。

(江口 彩子)



◆「音楽の集い」を開きます

すでに教室内ポスターなどでお知らせしていますが、11月3日（祝）に「音楽の集い」を開きます。「音楽の集い」は、おとなの方の発表会です。

すでに多くの方がエントリーしてくださいました。どうもありがとうございます。

「音楽の集い」は、音楽を楽しむおとなが集う会です。楽器を問わず、音楽のジャンルを問わず、経験を問わず、上手下手を問わず、純粹に皆で音楽を楽しむ会です。まだレッスンをおはじめになって間もない方もいらっしゃれば、長い間、コツコツ、練習を重ね、毎年ご出演くださっている方もいらっしゃいます。

ご出演者のご関係の方はもちろんですが、出演者とお知り合いでない方も、ぜひひききにいらしてください。お客さまとして足をお運びくださった方が、翌年、舞台上がっていらした、という嬉しいご縁も、これまで多くありました。

聴きにいらっしゃる方は、入場無料です。会場は「ひびきホール」です。

12：30開場、13：00開演です。事前予約は不要ですので、当日、直接いらしていただいて大丈夫です。

◆「ピアノ・トライ」のお申し込みについて

2018年1月より、「ピアノ・トライ」をおこないます。「ピアノ・トライ」は、例年おこなっている、教室の大切な行事です。

エチュードやバッハの作品といった、基礎力やテクニックにごまかしがきかない曲を課題曲とし、普段のレッスンの先生ではない、ベテラン先生が、お一人お一人の弾き方や表現や練習に問題がないか拝見し、さらに上手になっていただくためのアドバイスをお出しするものです。

「ピアノ・トライ」を上手に活用して、上手になっていらっしゃる生徒さんが、たくさんいらっしゃいます。この1年の成果をチェックし、次の成長につなげるために、ぜひ「ピアノ・トライ」をご活用ください。

「ピアノ・トライ」をお受けになった方の中で、すてきな演奏をされた方には、「ひびきホール」でおこなわれる演奏会「ル・コンセール」にご出演いただけます。

「ル・コンセール」は、1回目2018年2月11日（日）、2回目2月25日（日）

を予定しています。

(1) 電話申込み (申込み先 Tel 03-5966-7711)

12月6日(水)・12月9日(土)

※両日とも朝10:00～夕方16:00までの受付です。各日先着順とさせていただきます。

※例年、電話回線が混み合い、つながるまでに時間がかかる場合がございます。ご容赦ください。

(2) 日程 (全て「バッハはうす」でおこないます)

- | | | |
|----------------|----------------|---------|
| ①1月27日(土2・4) | 初級・中級(午後2グループ) | 山本先生予定) |
| ②1月28日(日②) | 初級・中級(午後2グループ) | 夏目先生予定) |
| ③2月4日(日)レッスンなし | 初級～(午前2グループ) | 能勢先生予定) |
| 〃 | 中級～(午後3グループ) | 夏目先生予定) |
| ④2月12日(月・祝) | 初級・中級(午前2グループ) | 能勢先生予定) |
| ⑤2月17日(土1・3) | 初級・中級(午後3グループ) | 山本先生予定) |
| ⑥2月18日(日①) | 中級～(午後2グループ) | 夏目先生予定) |

※進度は目安ですので、日程的なご都合を優先していただいて大丈夫です。

※進度の異なるごきょうだいを、同じ日の時間帯にお組みすることもできます。

(3) 参加費

2160円

※昨年度までは、当日、お持ちいただくことをお願いしていましたが、今年度より、お月謝引落し時に加算させていただきます。当日、参加費を現金でお持ちになる必要はありません。

(4) 課題曲

バッハの作品、もしくはエチュード。

ただし、絵音符の生徒さん、まだ五線の曲に入ったばかりの生徒さんの曲目は自由です。

◆ウイーン国立音楽大学の教授が一音会でレッスンをします

ウイーン国立音楽大学教授である、シュテファン・メラール先生が来日されます。

先月の「とらいあんぐる」で、卒業生、藤田真央さんが「第27回クララ・ハスキル国際ピアノコンクール」で優勝されたことを、お知らせしました。シュテファン・メラール先生は、現在の藤田真央さんを指導する先生のお一人です。

そのご縁から、今回特別に、一音会の生徒さんにレッスンをしていただけることになりました。

メラール先生は、演奏家として世界的に活躍するとともに、若い音楽家を育成することに尽力されていることでも知られる先生です。レッスンをご希望の方は、ピアノ担当先生・一音会本部まで、ご連絡ください【本部：03-5966-7711（担当：谷口・江口）】。



Stephan Möller (シュテファン・メラール)

ウイーン国立音楽大学教授

ウイーン国際ピアニスト協会会長

ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学で、ピアノをライグラフに師事し、指揮をヴィムベルガーに師事、ピアノ科と指揮科両方を卒業した。1983-1989年ザルツブルグ音楽祭でカラヤンのアシスタントを務める。1985年国際ベートーヴェン・コンクール第3位、他受賞歴多数。ベートーヴェンピアノソナタ、大フーガ、ワーグナーピアノ曲全集のCDも評価が高い。

2017年12月18日（月）・19日（火）・20日（水）・21日（木）

場所：ヘンデルハウス レッスン料（60分）： 25000円

レッスンはドイツ語でおこないます。通訳をご希望の場合は、通訳料5000円となります

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。